

昭和60年度日本気象学会総会議事録

日時 昭和60年5月23日(木) 13:00~14:30

場所 東京都千代田区大手町 1-3-4 気象庁講堂

総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 各賞受賞者選定経過報告
5. 学会賞授与
6. 藤原賞授与
7. 昭和59年度事業報告
8. 昭和59年度会計決算報告
9. 昭和59年度監査報告
10. 昭和60年度事業計画案, 予算案審議
11. 山本賞受賞者選定規定の改正について
12. その他
13. 閉会の辞

出席者数 出席者 143 名

委任状 746 名

計 889 名

1. 開会

花房理事から定款第38条による総会成立に必要な出席者数704名(通常会員現在数3,518名の5分の1うち), 委任状によらない出席者141名(通常会員の25分の1)が満たされているので総会は成立するとして, 開会が告げられた。

2. 議長選出

花房理事が議長選出は出席会員の互選によるが, 慣例にしたがい大会委員長の渡辺偉夫会員を推薦したいと語ったところ, 満場一致で承認され, 同会員が議長に選出された。

3. 議長挨拶

渡辺議長より, 指名により議長をつとめさせていただくのでご協力をお願いする旨の挨拶があった。

4. 理事長挨拶

山元理事長より, 概要次のような挨拶があった。

(1) 会員数の動向について

4月1日現在の会員は4,215名で, 1年前にくらべると148名の減となっている。会員数の動向は財政的にも, また, 日本の気象学のすそ野を広くするという学会本来の目的からみても非常に重要であるので, 会員増加に関して, 会員各位の協力をお願いする。

(2) 支部活動の強化について

支部活動強化のため, 約20%の支部交付金の増額を考えており, 各支部の活発な活動を期待している。

(3) 事務局体制の強化について

事務機器の導入を検討して円滑な事務局運営を図る案を練っている。

(4) 国際学术交流について

「天気」でお知らせしたとおり, 国際学术交流基金(59年度末100万円計上)を発足させた。60年度も約100万円を増額するよう努力したい。

しかしながら, 当面の利息では事業は不可能なので, 今年度は寄付金で事業を行うこととした。 「天気」で公募した今年8月ハワイで開催されるIAMAP総会に出席するための補助は, 国際学术交流委員会で選定した4名に対して行うことが昨日の理事会で決定した。

次いで, 中国気象学会との代表団の交流について, 昨年は日本気象学会から代表団7名が中国を訪問して中国気象学会創立60周年記念式典に参列した。今年は中国気象学会の代表団10名が10月に訪日して日本各地で学术交流を深め, 最後に大阪の秋季大会に出席する予定である。

(5) 名誉会員について

規定はあるが, 具体的な推薦手続きは明文化されていない。名誉会員にふさわしい会員を推薦する手続きをなるべく早く検討し, 総会で推薦したい。

(6) 気象学用語集について

気象学用語集の改訂作業は学術用語委員会において進められており, 近く文部省の承認が得られる予定である。

(7) 山本賞について

山本賞は従来春の大会で授与を行ってきた。しかし, 選考対象論文の発表時期等を考慮して, 秋の大会で授与するようにしたい。今回の授与については創立100年記念特別号も選考対象に含まれて, 対象論文数が多く, 選考手続きが進まなかったので秋に2名の方に授与するということで御了承願いたい。

(8) 来年 WMO 主催の数値予報シンポジウムが東京で開催される。シンポジウムで発表された論文のフルペーパーの出版を学会として前向きに検討したい。

(9) IAMAP 総会の誘致について

1989年我が国へ IAMAP 総会を誘致しようということに関して、学会会議の気象学研究連絡委員会でも意見を長期に亘って議論し、学会も理事会を中心に検討を進めてきた。主催は学会会議であるが、実質的には気象庁など関係諸機関の支援を得て日本気象学会が世話するということになる。出席者は数百名、予算規模は数千万円になり、そのうちの半分は寄付、募金になることが考えられる。わが国の気象学のレベルアップに伴い、かねてから外国の研究者から、わが国での開催の要望もあり、また、地球物理学関係の国際的学協会の総会等を日本で開催していないのは気象学だけであるので、IAMAP 総会開催の立候補を今年8月のハワイ総会でやりたい。

ハワイの総会で認められれば4年後の日本での開催に向け会員諸兄のご協力が不可欠である。

- (10) 炭酸ガスの増加に対する懸念の問題、核の冬等社会一般が懸念する問題に対して、自分自身の学識でもって責任ある発言が出来るように、すそ野の広い気象学を築き上げて行くことを皆様と一緒に誓いたい。

5. 各賞受賞者選定経過報告

- (1) 日本気象学会賞の受賞者選定の経過及びその理由について広田担当理事から報告があった。
- (2) 藤原賞の受賞者選定の経過及びその理由について広田担当理事から報告があった。

6. 日本気象学会賞の授与

山元理事長から次の会員に賞状、賞牌、賞金が授与された。

○木田秀次会員（気象研究所）

「大気大循環モデルを用いた物質輸送の研究」

○宮原三郎会員（九州大学理学部）

「下部熱圏における大気潮汐波動と平均流の相互作用に関する理論的研究」

7. 藤原賞の授与

山元理事長から次の会員に賞状、賞牌、賞金が授与された。

○岸保勘三郎会員（元東京大学教授）

「日本の気象学の発展と国際協力の推進に尽した功績」

8. 昭和59年度事業報告

田宮庶務担当理事が、概要次のとおり報告した。

(1) 会員数の動向

昭和60年2月1日現在会員数 4,199

(2) 機関誌等の刊行

ア. 天気

31巻4号～32巻3号12冊708頁(前年比44頁増)

イ. 気象集誌

62巻2号～63巻1号6冊904頁(前年比4頁増)

ウ. 気象研究ノート

149号(111頁), 150号(84+2頁), 145号(145頁)

(3) 会議

ア. 総会

昭和59年5月24日気象庁講堂において開催、委任状によらない出席者157名、委任状662名計819名参加、昭和58年度決算、事業報告、昭和59年度予算、事業計画が承認された。

イ. 理事会

第22期、第22・23期合同各1回、第23期2回

ウ. 常任理事会

第22期2回、第23期7回

エ. 評議員会

1回

(4) 講演会および研究会

ア. 春季大会

昭和59年5月23日～25日、於気象庁(担当予報部)

イ. 秋季大会

昭和59年10月24日～26日、於電気ビル(福岡市)(担当九州支部)

ウ. 月例会等

(ア) 南極圏の気象(第1回) 昭和59年5月22日

(イ) 第28回山の気象シンポジウム

昭和59年6月16日

(ウ) 大気数値シミュレーション(第6回)

昭和59年8月31日

(エ) 南極圏(第2回)

昭和59年10月23日

(オ) 長期予報と大気大循環 昭和60年2月22日

エ. 他学会との共催・後援

(ア) 第20回理工学における同位元素研究発表会

昭和59年7月2日～4日

(イ) 第2回エアロゾル科学・技術研究討論会

昭和59年8月23日～25日

(ウ) 国際 MAP シンポジウム

昭和59年11月26日～30日

(エ) 第8回風工学シンポジウム

昭和59年12月6日～7日

(オ) 第31回風に関するシンポジウム

昭和59年12月20日

(5) 研究業績の表彰および研究の奨励

ア. 研究業績の表彰

(ア) 日本気象学会賞

(a) 榎田武彦・黒田登志雄会員

(b) 山田哲二会員

(イ) 藤原賞

広野求和会員

(ウ) 山本賞

萬納寺信崇会員

イ. 奨励金受領者

(ア) 平 隆介会員

(イ) 加藤敏彦会員

(ウ) 柴山元彦会員

(6) 支部活動・普及活動等

ア. 支部活動

(ア) 北海道支部第2回夏季講座 於札幌市少年科学館 昭和59年8月1日～2日

(イ) 関西支部第1回例会「長周期の気象変化」(京都) 昭和59年10月5日

(ウ) 北海道支部講演会「最近の異常気象について」於道新ホール 昭和59年10月6日

(エ) 中部支部研究会 昭和59年11月22日

(オ) 関西支部第2回例会「局地気象」(高松) 昭和59年12月14日

(カ) 関西支部第3回例会「海と気象」海洋気象学会と共催(神戸) 昭和60年1月31日

(キ) 関西支部第4回例会「山元理事長就任記念」(大阪) 昭和60年3月14日

イ. 普及活動 夏季大会 東京、大阪で例年どおり開催した。

(7) 役員選挙

59年7月1日投票が行われ、新役員が決まった。

(8) 訪中代表団

7名の代表団を10月派遣し、中国気象学会創立60周年記念式参列等両国の交流を深めた。

(9) 日本学術会議第13期会員候補者の選定とその推

薦人の指名

日本学術会議会員選出制度の変更にとまない、理事会は本会の登録を地球物理学研究連絡委員会とすることとし、当面、次のような措置をとる事にした。

ア. 日本学術会議会員候補者1名および同推薦人4名を選考するために、理事会は数名の委員からなる推薦委員会を設置した。

イ. 上記の推薦委員会の選考の対象とすべき日本学術会議会員候補の推薦を、全学会員から募った。

ウ. 推薦委員会は

学術会議会員候補者として 沢田龍吉会員

同推薦人として 浅井富雄、竹内清秀、松野太郎、山元龍三郎各会員

を選考した。選考結果は理事の投票にかけられ承認された。

エ. 上記の結果にもとづき、理事長は日本学術会議事務局へ所定の手続きを行った。

オ. 推薦管理会から会員の候補者が会員の資格を有すると認定された旨通知があった。

(10) 国際学術交流基金が充足した

59年度積立金額 100万円

9. 昭和59年度会計決算報告

土屋会計担当理事が資料にもとづき、概要次のとおり報告した。

収入の部では会費収入については100%に近い納入率を示し、さらに未収金の回収により予算額にくらべて約250万円の増になっている。

事業収入では気象研究ノート発刊計画の縮小により約380万円程減収になっている。その他の収入では初任者研修、ペーパーズ等の未収金の回収、補助金収入、雑収等いずれも増となっている。

支出の部については管理費のなかに総会費用引当準備金を設けた。

また、国際学術交流を促進するための基金として100万円を確立した。

10. 昭和59年度監査報告

丸山監事が昭和60年4月19日山田監事とともに監査を実施した結果について、資料にもとづき報告した。

議長が事業報告、会計決算報告、監査報告の3件につき、承認を求めたところ多数により承認された。

11. 昭和60年度事業計画(案)の審議

田宮庶務担当理事が概要次のとおり説明した。

(1) 機関誌等刊行

- ア. 天気 32巻4～12号, 33巻1～3号
768頁/12冊
- イ. 気象集誌 63巻2～6号, 64巻1号 948頁/6冊
- ウ. 気象研究ノート 152～155号 480頁/4冊
いずれも増員や編集費の増額等により内容の充実を努める。

(2) 講演会及び研究会等

- ア. 春季大会 於気象庁 昭和60年5月22日～24日
(担当 東京管区気象台)
- イ. 秋季大会 於大阪科学技術センター (大阪)
昭和60年10月29日～31日 (担当関西支部)
- ウ. 極東域モンスーンについての国際会議 後援
於 東大海洋研究所 昭和60年11月5日～8日
- エ. 月例会は例年どおり開催する予定である。なお、月例会開催の支援体制の検討をすすめている。
- オ. 他学会等との研究会等の共催・後援

(3) 1989年国際気象学・大気物理学協会 (IAMAP)

総会開催に立候補する計画がある。開催が決定すれば日本気象学会が主催団体の一つになることを認識した上でこの計画に協力する。
開催期間 (予定): 1989年8月 (約2週間)
開催地 (予定): 東京

(4) 国際学術交流

- ア. 中国気象学会からの訪日団の受け入れ
秋季大会前後に10名の訪日団が予定されている。いくつかの支部で講演会等が実施される予定である。
- イ. ホノルルにおける IAMAP 総会参加の援助

(5) 夏季大学の開講

- ア. 東京 第19回 昭和60年7月30日～8月2日
- イ. 大阪 第7回 昭和60年7月31日～8月2日

(6) 事務体制の整備

- ア. 事務機械化の検討
- イ. 選挙経費の積立等支出の平滑化

(7) 支部活動

支部交付金を増額するので各支部の活動がそれに対応して活発化することを期待する。

(8) 会員増の方途を検討する。

- (9) 名誉会員推薦を総会に提案すべく検討を進める。
- (10) 学術用語集気象学編の改訂版の出版を予定して

いる。

- (11) 学術会議関係の法令の改正に対応させて学会の定款細則等の検討を行う。

12. 昭和60年度予算 (案) の審議

土屋会計担当理事が資料にもとづき、概要次のとおり説明した。

- (1) 収入の部の通常会員の会費については前年度の予算案にくらべると会員減によって若干減っている。その他の会員から徴収する会費と合計すると380万円程前年度より増えている。
なお、前年度の予算書と異なる点は前受会費の書き方である。
事業収入については気象研究ノートの収入を実績にもとづいて前年予算案よりも若干おさえてある。その他については実績あるいは前年度並である。

- (2) 支出の部の会議費については中国からの訪日団関係の予算も含まれているので若干増えている。

支部交付金は増額。

事務体制の強化については、公約の一つでもあり、事務機械化を考えているので、その準備金として75万円を計上した。

機関誌の充実に関しては「天気」「気象集誌」とも48頁増、いずれも編集費を増額している。気象研究ノートも編集費を増額して充実をはかるように配慮した。

学会賞は最近2名の方に授与する傾向にあるので20万円、山本賞は規定改正を条件に20万円計上した。また、国際学術交流基金として100万円、予備費として150万円、次期繰越金は2,111万円である。

議長から昭和60年度事業計画案、予算案の2件について、質問意見等の発言を求めた。

質問: 気象研究ノート発行回数減少について、一般の気象関係の出版が増えていることに関係はないか。また、総会費用引当準備金の名称について。

回答: 昨年度は5巻の予定であったが、事情により3巻にせざるを得なかったということで、予算としては4巻位が適当ではないかと判断した。

総会費用引当準備金という項目名については

検討したい。

質 問：会員増をはかる案を示されたい。

回 答：気象庁 OB の組織がいくつかあるので、広告掲載等協力を依頼したい。また、学生会費に類することを退職者についても考えたかどうかという意見もあるので具体的に検討してゆきたい。

質 問：機関誌の講読だけの会員等の新しい会員種別を設けてはどうか。また、主として雑誌の読者であるという会員のために「天気」を面白いものにして考えも一つの方法である。

回 答：研究者でない会員に対して機関誌を面白くするという提案は昔からあって、500 mb 天気図を掲載する等努力しているが、にわかには目標を達成する状況には至っていない。会員の種別については検討していきたい。

議長から昭和60年度事業計画案、予算案の2件につき承認を求めたところ、多数により承認された。

13. 山本賞受賞者選定規定の改正について

山本賞授与の時期を春の総会から秋の大会に変更し、

受賞対象論文の発行と受賞期間のへだたりを少なくする。秋の大会ならば受賞記念講演が時間的に可能であろうということも含め提案する。

改正点：山本賞受賞者選定規定の

- (1) 規定2項 委員は「毎年8月」を「毎年2月」
- (2) 規定2項 「編集委員の中より」を「現及び前編集委員の中より」
- (3) 規定3項 「翌年2月末まで」を「6月末まで」
- (4) 規定6項 「総会」を「秋季大会」の4点及び60年の移行措置である。

議長が山本賞受賞者選定規定の改正につき承認を求めたところ、多数により承認された。

14. 議長解任

議長より会員の協力により、無事議長の務めを果すことができたことに謝意を表し、議長解任の挨拶があった。

15. 閉会の辞

以上を以て、昭和60年度社団法人日本気象学会総会が終了した。

山本賞（気象学会の部）受賞者選定規定の改正について

昭和60年5月23日総会で下記のとおり改正されましたのでお知らせします。

山本賞（気象学会の部）受賞者選定規定（昭和54.5.23制定）
（昭和60.5.23改正）

1. 山本賞受賞者を選定するための山本賞候補者推薦委員会（以下委員会と称する）を設ける。
2. 委員会は11名の審査委員をもって組織し、委員は毎年2月理事長が「天気」および「気象集誌」の現および前編集委員の中よりこれを委嘱する。委員長は両機関誌編集委員長の内のいずれかがこれに当たる。なお、委員は気象学会賞および藤原賞候補者推薦委員と重複しても差しつかえない。
3. 委員会は原則として前年に発行された「天気」および「気象集誌」に発表された論文を審査し、その中から基礎研究・応用技術開発を問わず、原則として若い新進の研究者・技術者の優秀論文1篇を選び、その選定理由書をつけて6月末までに理事長に報告する。共著論文の場合は、筆頭著者を該当者とする。
4. 既に過去において学会賞・藤原賞および山本賞のいずれかを受賞したものは対象から除外する。しかし、山本賞を受賞した者が、その後学会賞または藤原賞を受賞することは妨げない。
5. 理事長は常任理事会にかけ全理事に対し無記名によってその可否を投票させる。全投票数は理事総数の4分の3以上でなければならない。有効投票のうち3分の2以上可とする得点があるものを受賞者と決定する。
6. 山本賞は原則として賞状およびメダルならびに副賞（賞金）とし、1件1名のみに対して秋季大会でこれを贈呈する。また、賞金は原則として1件10万円とする。

付則 昭和60年度については規定2の「2月」を「総会の議決後直に」と読みかえる。

昭和59年度 収支計算書

社団法人日本気象学会

収入の部

(昭和59年4月1日より昭和60年3月31日まで)

勘定科目			予算額	決算額	差異	備考
大科目	中科目	小科目	(円)	(円)	(円)	
会費収入			30,403,150	32,859,225	2,456,075	
	通常会費収入	個人会費収入	21,710,700	23,616,850	1,906,150	
	団体会費収入	団体会費収入	4,687,200	4,729,200	42,000	
	外国人会費収入	外国人個人会費収入	763,750	940,634	176,884	
		外国団体会費収入	521,500	783,341	261,841	
	賛助会費収入	賛助会費収入	2,720,000	2,789,200	69,200	
事業収入			13,587,000	11,398,002	△2188,998	
	気象研究ノート収入	気象研究ノート収入	8,357,000	4,529,966	△3,827,034	
	予稿集収入	予稿集収入	2,550,000	2,604,150	54,150	
	その他収入	その他収入	2,680,000	4,263,886	1,583,886	初任者研修 Papers 書店扱他
補助金収入						
	文部省補助金収入	科学研究費収入	3,350,000	3,710,000	360,000	
雑収入						
	雑収入	雑収入	9,600,000	10,794,340	1,194,340	受取利息、 別刷代、投 稿料、広告 料他
基本財産収入						
	基本財産収入	預金収入	1,000,000	1,029,989	29,989	
積立預金取崩収入						
	退職給与引当金預金取崩収入	退職給与引当金預金取崩収入	0	0	0	
収入計			57,940,150	59,791,556	1,851,406	
前期繰越金			20,236,554	17,727,126	△2,509,428	
	前受金	前受会費	19,668,975	17,159,547	△2,509,428	
	前期繰越収支差額	前期繰越収支差額	567,579	567,579	0	
合計			78,176,704	77,518,682	△658,022	

支 出 の 部

勘 定 科 目			予 算 額 (円)	決 算 額 (円)	差 異 (円)	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
管理費			13,910,100	13,997,408	87,308	
	給 料 手 当	給 料 手 当	5,076,900	5,181,028	104,128	
	退職給与引当金 繰 入 額	退職給与引当金 繰 入 額	100,000	100,000	0	
	退 職 金	退 職 金	1,055,200	1,055,200	0	
	福 利 厚 生 費	福 利 厚 生 費	400,000	360,434	△ 39,566	
	会 議 費	会 議 費	420,000	532,810	112,810	
	旅 費 交 通 費	旅 費 交 通 費	262,000	196,500	△ 65,500	
	通 信 運 搬 費	通 信 運 搬 費	1,600,000	1,267,651	△ 332,349	
	什 器 備 品 費	什 器 備 品 費	200,000	397,304	197,304	
	消 耗 品 費	消 耗 品 費	200,000	287,621	87,621	
	印 刷 製 本 費	印 刷 製 本 費	550,000	556,435	6,435	
	光 熱 水 料	光 熱 水 料	210,000	181,504	△ 28,496	
	賃 借 料	賃 借 料	400,000	361,837	△ 38,163	
	租 税 公 課	租 税 公 課	400,000	30,250	△ 369,750	
	雑 費	雑 費	850,000	787,979	△ 62,021	
	支 部 交 付 金	支 部 交 付 金	2,086,000	2,045,300	△ 40,700	
	諸 謝 金	諸 謝 金	100,000	55,555	△ 44,445	
	総 会 費 用 引 当 金 準 備 金	総 会 費 用 引 当 金 準 備 金	0	600,000	600,000	
事業費			43,881,300	41,465,841	△2,415,459	
	図 書 購 入 費	図 書 購 入 費	300,000	394,800	94,800	Papers 購入費他
	臨 時 雇 賃 金	臨 時 雇 賃 金	431,500	170,500	△ 261,000	
	会 議 費	会 議 費	1,050,000	1,070,000	20,000	
	旅 費 交 通 費	旅 費 交 通 費	240,500	146,300	△ 94,200	
	通 信 運 搬 費	通 信 運 搬 費	4,646,400	4,171,718	△ 474,682	
	編 集 費	編 集 費	3,810,000	3,055,580	△ 754,420	

勘 定 科 目			予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目	(円)	(円)	(円)	
	印刷製本費	印刷製本費	32,561,900	31,575,043	△ 986,857	天気、気象 集誌、気象 研究ノート 他
	負担金	負担金	31,000	31,900	900	
	雑費	雑費	300,000	240,000	△ 60,000	
	学会賞支出	学会賞支出	100,000	200,000	100,000	
	藤原賞支出	藤原賞支出	100,000	100,000	0	
	山本賞支出	山本賞支出	100,000	100,000	0	
	奨励金支出	奨励金支出	210,000	210,000	0	
国際学術 交流費						
	国際学術交流費	国際学術交流費	250,000	250,000	0	国際学術交 流基金の設 立
基本財産 繰入						
	基本財産繰入	基本財産繰入	0	0	0	
	国際学術交流 基金繰入	国際学術交流 基金繰入	0	750,000	750,000	
予備費						
	予備費	予備費	200,000	200,000	0	
支 出 計			58,241,400	56,663,249	△1,578,151	
次期 繰越金			19,935,304	20,855,433	920,129	
	前受金	前受会費	19,668,975	20,090,099	421,124	
	次期繰越 収支差額	次期繰越 収支差額	266,329	765,334	499,005	
合 計			78,176,704	77,518,682	△ 658,022	

昭和59年度 財産目録

(昭和60.3.31現在)

社団法人 日本気象学会

理事長 山元 龍三郎

資産総額 39,765,439円

1. 基本財産 (基本金、基金) 15,150,000円

不 動 産 0円

動 産 15,150,000円

種 類	預 入 先	金 額円	現 在 高円	備 考
貸付信託	住友信託銀行(新橋支店)	9,650,000	9,650,000	基本金
"	"	3,000,000	3,000,000	山本賞基金
"	"	500,000	500,000	藤原賞基金
"	三井信託銀行(本店)	1,000,000	1,000,000	"
公社債信託	野村証券KK(銀座支店)	1,000,000	1,000,000	国際学術交流基金
計		15,150,000	15,150,000	

2. 積立金 900,000円

種 類	預 入 先	金 額円	現 在 高円	備 考
金 銭 信 託	住友信託銀行(新橋支店)	300,000	300,000	退職給与積立金
公 社 債 信 託	野村証券KK(銀座支店)	600,000	600,000	総会費用積立金
計		900,000	900,000	

3. 運用財産 20,855,433円

種 類	預 入 先	金 額円	現 在 高円	備 考
普通預金	第一勧業銀行大手町支店	1,342,723	1,342,723	
郵便振替貯金	東京中央郵便局	160,680	160,680	
公社債信託	野村証券KK(銀座支店)	1,004,763	1,004,763	
"	日興証券KK(新丸ビル支店)	18,081,000	18,081,000	
現金	手許保管	266,267	266,267	
計		20,855,433	20,855,433	

4. 什器備品 1,854,540円

5. 期末在庫 1,005,466円

社団法人日本気象学会 監査報告書

社団法人日本気象学会の財産及び業務執行の状況を、次のとおり監査したので報告する。

1. 監査月日 昭和60年4月19日
2. 監査場所 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内
社団法人日本気象学会事務局
3. 監査帳簿

(1) 昭和59年度収支計算書	(8) 領収証綴
(2) 財産目録	(9) 預金証書及び普通預金通帳
(3) 元帳	(10) 郵便振替受払通知票綴
(4) 現金出納帳	(11) 国庫金送金通知書綴
(5) 預金出納帳	(12) 現金書留受領簿
(6) 備品台帳	(13) 小切手帳及び振出帳簿
(7) 物品出納帳(含物品在庫調書)	(14) 昭和59年度事業報告書

4. 監査内容

- (1) 昭和59年度収支計算書について、その経理状況を監査するとともに、財政状況を調べた。
- (2) 上記の帳簿類について、照合を行うとともに、出納状況および記載事項の監査を実施した。
- (3) 学会の運営状況について聴取し、意見を述べた。

5. 監査意見

監査の結果、昭和59年4月1日から昭和60年3月31日までの会計年度の収支計算書は、正しいと認める。会計帳簿を照合したところ、その記帳は正確であり、整理もよくなされている。会費収入状況は良好であり、その前納率は98%に達している。財政は一応安定しているが、当年度より四半期ごとに中間集計を行い、財政運営の一層の健全化に努めるなど、役員ならびに事務局員の労を多とする。

事業はほぼ計画どおり遂行されている。しかし会員増加のための方策が必要である。また、理事長、常任理事の選任規定の整備、日本学術会議会員候補者および推薦人に関して定款等の見直しが必要である。

昭和60年4月19日

監 事 丸 山 健 人 ㊟

山 田 文 雄 ㊟

昭和60年度予算書

451

社団法人日本気象学会

収入の部

(昭和60年4月1日～昭和61年3月31日)

勘定科目			予算額 (千円)	前年度予算額 (千円)	増減 (千円)	備考
大科目	中科目	小科目				
会費収入			34,205	30,403	3,802	
	通年会費収入	個人会費収入	5,932	6,190	△ 258	2/1現3,503人 61/1～3月の分
	通年会費収入	個人会費収入	4,946	4,687	259	2/1現509ヶ所 60年度分
	外国人会費収入	外国人会費収入	233	216	17	2/1現85人 61/1～3月の分
		外国人会費収入	234	149	85	2/1現59ヶ所 61/1～3月の分
	賛助会費収入	賛助会費収入	2,770	2,720	50	42団体
	前期前受金	前期前受金	20,090	16,441	3,649	60/4～60/ 12の分
事業収入			13,804	13,587	217	
	気象研究ノート収入	気象研究ノート収入	7,300	8,357	△ 1,057	
	予稿集収入	予稿集収入	2,650	2,550	100	
	初任者研修	初任者研修	900	500	400	
	書店扱収入	書店扱収入	2,570	1,700	870	
	ペーパーズ収入	ペーパーズ収入	384	480	△ 96	
補助金収入			3,710	3,350	360	
	文部省補助金収入	科学研究費収入	3,710	3,350	360	
雑収入			10,500	9,600	900	
	受取利息	受取利息	500	500	0	
	別刷	別刷	3,000	3,000	0	
	投稿料	投稿料	4,300	3,500	800	
	広告料	広告料	2,200	2,100	100	
	その他	その他	500	500	0	
基本財産収入						
	基本財産収入	預金収入	1,000	1,000	0	
積立預金						
取崩収入	退職給与引当金積立預金取崩収入	退職給与引当金積立預金取崩収入	0	0	0	
収入計			63,219	57,940	5,279	
当期繰越金						
	前受金	前受会費	19,232	19,669	△ 437	61/4～61/ 12の分
前期繰越金						
	繰越収支差額	繰越収支差額	765	568	197	
合計			83,216	78,177	5,039	

支 出 の 部

勘 定 科 目			予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
大科目	中科目	小科目	(千円)	(千円)	(千円)	
管理費			15,080	13,910	1,170	
	給料手当	給料手当	5,200	5,077	123	
	退職給与引当金繰入額	退職給与引当金繰入額	300	100	200	
	退職金	退職金	0	1,055	△ 1,055	
	福利厚生費	福利厚生費	400	400	0	
	会議費	会議費	995	420	575	
	旅費交通費	旅費交通費	380	262	118	
	通信運搬費	通信運搬費	1,600	1,600	0	
	什器備品費	什器備品費	200	200	0	
	消耗品費	消耗品費	200	200	0	
	印刷製本費	印刷製本費	150	550	△ 400	
	光熱水料	光熱水料	230	210	20	
	賃借料	賃借料	400	400	0	
	租税公課	租税公課	400	400	0	
	雑費	雑費	900	850	50	
	支部交付金	支部交付金	2,420	2,086	334	
	諸謝金	諸謝金	55	100	△ 45	
	総会費用引当金準備金	総会費用引当金準備金	500	0	500	積立の計上
	事務機械化引当準備金	事務機械化引当準備金	750	0	750	2年度1年分

勘 定 科 目			予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
大科目	中科目	小科目	(千円)	(千円)	(千円)	
事業費			4,452.6	4,388.2	64.4	
	図書購入費	図書購入費	300	300	0	
	臨時雇賃金	臨時雇賃金	288	432	△ 144	
	会議費	会議費	1,050	1,050	0	
	旅費交通費	旅費交通費	189	241	△ 52	
	天 気		18,599	17,547	1,052	48P増 年768P
		印刷製本費	13,556	13,015	541	
		編集費	2,026	1,688	338	
		通信運搬費	3,017	2,844	173	
	気象集誌		13,834	12,841	993	48増 年948P
		印刷製本費	11,390	10,682	708	
		編集費	1,505	1,377	128	
		通信運搬費	939	782	157	
	気象研究ノート		6,819	8,344	△ 1,525	
		印刷製本費	5,487	6,859	△ 1,372	
		編集費	716	745	△ 29	
		通信運搬費	616	740	△ 124	
	予稿集		1,745	1,736	9	
		印刷製本費	1,456	1,456	0	
		通信運搬費	289	280	9	
	初任者研修		637	550	87	
		印刷製本費	500	550	△ 50	
		編集費	137	0	137	
	負担金	負担金	55	31	24	
	雑費	雑費	300	300	0	
	学会賞	学会賞	200	100	100	
	藤原賞	藤原賞	100	100	0	
	山本賞	山本賞	200	100	100	規定改正 により本 年度2名
	奨励金	奨励金	210	210	0	
国際学術 交流費						
	国際学術交流費	国際学術交流費	1,000	250	750	
予備費						
	予備費	予備費	1,500	200	1,300	
支 出 計			62,106	58,242	3,864	
次期繰 越金			21,110	19,935	1,175	
	前受金	前受会費	20,232	19,669	563	
	次期繰 収支差額	次期繰 収支差額	878	266	612	
合 計			83,216	78,177	5,039	